

第 16 章 指導の計画と実践 解答

Q1. 発症進展を予防	Q2. QOL を維持	Q3. セルフケア能力を向上
Q4. 信念・ヘルスビリーフ	Q5. 期待・セルフエフィカシー	Q6. 動機づけ
Q7. 心理的受け入れ	Q8. 主体的な行動	Q9. 支援
<p>Q10. 下記のうち、3つ書かれていれば正解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個々の患者の病状や入院目的に対し、個別に適合するよう指導計画をたてる。 ・ 指導対象が理解しやすいように指導内容の順序や指導時間を配慮する ・ 指導対象がその時々で達成可能な現実的目標と目標達成のための具体的な方法がわかりやすい計画である ・ 指導後は必ず評価し、目標の達成を確認する ・ 指導対象は指導側に対し不満や期待、希望などを持つことが多い。指導対象者の「思い」に気づき、留意しながら計画をたてる 		
<p>Q11. 下記のうち、3つ書かれていれば正解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 糖尿病に関する知識を個々の患者の社会背景にあわせて、平易にしかし正確に説明する。 ・ 対象者の健康状態・健康に対する価値観・身体や認知、心理社会的発達、これまでの学習経験等から、学習に関するレディネスをアセスメントする ・ 指導を受けやすい、そして実践しやすい環境づくりをする ・ 個別の事情になるべく合わせた指導内容を工夫する ・ 指導対象者個々の学習ペースを尊重する ・ チームとしての機能に着目する ・ 指導対象者の人権を尊重し、倫理的配慮を怠らない ・ 患者が「できていること」に焦点をあてる 		
Q12. 目標の設定	Q13. 評価	
<p>Q14. 個別指導の特徴、3つ書かれていれば正解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 集団指導に比べ人手や時間がかかる ・ 患者個々の状況に即した指導ができる、指導中の患者の反応に応じた対応がとりやすい ・ 患者と医療者との相互作用を重視した関わりがとりやすい ・ 患者の状況を考慮したうえで、患者の反応を引き出し、それに応じた対応ができる専門的な知識や能力が必要 ・ 直接患者同士のつながりをつくる場にはならない 		
<p>Q15. 集団指導の特徴、3つ書かれていれば正解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個別指導に比べ、人手や時間がかからない ・ 糖尿病の一般的な知識や参加者に共通して必要な情報を提供する場合に効率的 ・ 患者個々の状況に合わせた指導はしづらい ・ 医療者から患者への一方通行なかわりになりやすい ・ 集団への働きかけのなかで、患者の反応を引き出し、それを指導に反映させる能力が必要 ・ 患者同士の意見交換、話し合いの場が持て、患者間での相互作用が生まれる場になる 		